



鳥取県立むきぼんだ史跡公園
年 報 2020



鳥取県立むきぼんだ史跡公園

目次

I	令和2年度の事業内容	1
1	調査整備事業	1
(1)	保存整備	1
(2)	発掘調査	2
2	維持管理事業	3
(1)	史跡管理	3
(2)	施設・設備管理	3
3	活用事業	4
(1)	史跡PR	4
ア	教育旅行誘致	4
イ	観光情報説明会	4
ウ	企画展・園外展示等	4
エ	パンフレット等	5
オ	公式動画サイト（YouTubeチャンネル）の開設	5
(2)	講座・イベント・弥生体験	5
ア	弥生のものづくり講座～プロフェッショナル編～	6
イ	弥生のものづくり講座～入門編～	6
ウ	弥生の森講座	7
エ	むきばんだ遺跡土曜講座	8
オ	むきばんだジュニアファンクラブ	8
カ	むきばんだ女子考古部	9
キ	GWは、むきばんだ日和	10
ク	むきばんだ秋の満喫ウィーク～空んぼむきばんだ～	11
ケ	空んぼむきばんだ～空から史跡を見てみると～	12
コ	シンポジウム	12
サ	スペシャルイベント	13
シ	弥生体験	13
ス	その他	14
II	連携・協力	15
1	妻木晩田遺跡ボランティアガイドの会	15
(1)	概要	15
(2)	活動内容	15
(3)	史跡公園主催の研修、講座	15

2	弥生体験ボランティア	15
3	妻木晩田遺跡活用実行委員会	15
4	サークル活動	16
	(1) 土器づくりの会	16
	(2) むきばんだを歩く会	16
III	その他の事業	17
1	とっとりの文化遺産魅力発掘プロジェクト	17
	(1) プロジェクトの概要	17
	(2) 個別の事業概要	17
	ア よどえまるごと道草日和 2020	17
	イ 学ぶ・楽しむ淀江・大山の歴史遺産講座	17
	ウ 米子歴史絵巻	18
IV	利用状況	19
1	入場者数	19
2	施設の利用状況と今後の対策	19
V	公園運営（令和2年度）	21
1	組織	21
2	職員	21
3	事業費	21
4	施設の概要	22
	(奥付)	

I 令和2年度の事業内容

1 調査整備事業

(1) 保存整備

令和2年度の保存整備では、老朽化の進んだ洞ノ原10号高床倉庫の再整備及びその普及啓発のためのパンフレットの作成、妻木新山地区の景観整備を実施した。

ア 洞ノ原10号高床倉庫

施工場所 洞ノ原地区

工 期 設計

令和2年5月18日～7月28日

再整備

令和2年10月22日～令和3年2月5日

概 要

洞ノ原10号高床倉庫は、平成13年度に整備した復元建物であり、整備後20年近くが経過したこともあり、雨漏り、柱の腐食、妻壁板が垂れ下がるなど、老朽化が著しく、見学する上で危険な状態となっていた。このため、建物を健全な状態に戻し、安全な状態で見学できるようにすることを目的として、解体修理を実施した。

解体修理にあたり、現状で問題となってい

る柱の根腐れ、棟部分の雨漏り、壁板の垂れ下がりについて、施工後の経年劣化を軽減するために工法を見直したほか、青谷上寺地遺跡の調査研究成果を踏まえ、壁板の固定方法を変更した。

具体的には、柱の根腐れを防ぐため、柱の固定金具をL型金具から箱型金具へ変更し、土と柱が接触しない工法に変更した。雨漏りを防ぐため、杉皮葺の下に野地板を取り付け、防水シートを貼った。杉皮は強風で飛ばされないようタッカーで固定した。壁板は、青谷上寺地遺跡の調査研究に基づき、縦棧に固定する方法から、垂木や木舞、最上段では横棧に固定する方法に改めた。

なお、この再整備では、むきばんだ史跡公園の復元建物の整備について広く周知を図るため、パンフレット「史跡妻木晩田遺跡 洞ノ原10号高床倉庫の再整備」を作成した。

イ 妻木新山地区景観整備

施工箇所 妻木新山地区

工 期 令和3年2月2日～3月11日

概 要

妻木新山地区は整備活用基本計画（平成15年度策定）において「人と自然のふれあいゾーン」と位置づけており、同計画に基づく第



洞ノ原10号高床倉庫再整備状況



妻木新山地区景観整備状況

1期整備でも里山の二次林は活かしつつ、県民参画による植樹祭などを通してテーマ林（「木の実の森」「虫の森」）の創出、育成を行ってきた。

ここでは、自然観察や木の実拾い、窪地として残る竪穴住居跡の見学が楽しめるほか、標高が最も高くなる位置に整備された展望スペースからは、妻木山地区及び洞ノ原地区の復元建物群や孝霊山、船上山を見ることができる。一方でその北側は、見通しの良い箇所にもかかわらず、成長した樹木で視界が阻害され、平野部や日本海を望むことができなくなっていた。

そこで、来園者に眺望の良さを知ってもらい、弥生時代の人々が見たであろう景色を迫体験できるよう、展望スペース北側の樹木を一部伐採し、ビューポイントとして整備を行った。

（2）発掘調査

調査対象 妻木新山地区 2区南側斜面部
(第36次発掘調査・内容確認調査)

調査期間 令和2年8月24日～10月28日

調査面積 156㎡

調査担当 森藤 徳子

調査課題 出現期～展開期における集落像の
解明

概 要

令和2年度の第36次発掘調査は、令和元年度の第35次発掘調査に引き続き、妻木新山地区2区の南側斜面部で実施した。

妻木新山地区2区は、第1次発掘調査において尾根の平坦面から緩斜面にかけて弥生時代後期前葉から中葉（集落形成期から展開期）の竪穴住居跡が多数検出され、当該期の集落の中心的な居住域であったとみられるが、斜

面部の調査はほとんど行われていなかった。そこで、斜面部の遺構の分布や時期、遺構の性格を確認することを目的として内容確認調査を実施した。

前年度に実施した第35次発掘調査では、妻木新山地区2区の遊歩道から南側の斜面部で、斜面の等高線に直交する南北方向のトレンチを3箇所を設定し、そのうちトレンチ1・2について掘削を行った。その結果、尾根上の住居群と同じ弥生時代後期前葉～中葉の大型遺構や、弥生時代後期前葉の貯蔵穴を確認した。続く第36次発掘調査では、新設トレンチの調査及び令和元年度に検出した遺構の追加調査を実施した。第35次発掘調査で設定し未調査だったトレンチ3に加え、第35次発掘調査で複数の遺構を検出したトレンチ1と比較的急峻な部分ではほとんど遺構がなかったトレンチ2の中間にトレンチ4を新設した。追加調査を行った遺構は、トレンチ1の遺構3及びトレンチ2の遺構4であり、拡張トレンチを設定して調査を行った。

調査の結果、第35次発掘調査で確認した遺構と合わせて、斜面部において尾根の平坦面と同じ集落形成期から展開期（弥生時代後期前葉から中葉）にあたる遺構が分布することを確認した。斜面部の中腹付近まで集落展開期にあたる竪穴住居跡が分布しており、貯蔵穴や段状遺構など多くの遺構を検出した。

竪穴住居跡は3棟検出した。トレンチ1の遺構3は、遺構の東西幅が6.3m以上で平面形が不整楕円形となることを確認し、遺構内の調査により周壁溝や貼床、柱穴の可能性のあるピットや炉跡を検出した。南側斜面の中腹付近に立地し、時期は弥生時代後期中葉頃とみられる。トレンチ2の遺構4は、平面形は半円形で、貼床と周壁溝、柱穴の可能性の

あるピットを検出した。トレンチ4の遺構9は、平面形が弧を描き、貼床を検出した。時期は弥生時代後期中葉頃とみられる。このほか、斜面部に特徴的な遺構として段状遺構があり、第35次発掘調査で検出した弥生時代後期中葉頃の遺構1に加え、トレンチ4で時期不明の段状遺構3基(遺構7・8・10)を検出した。

今回の調査成果から、妻木新山地区の尾根上が居住域となっている期間は斜面部も居住域として積極的に利用されていたとみられる。また、傾斜が緩やかな場所に竪穴住居跡などが分布していることから、地形に応じて生活に適した場所を選択的に利用している可能性がある。

次年度は、妻木新山地区2区の北側斜面部などで調査を実施する計画である。



第36次発掘調査区トレンチ4調査終了状況

2 維持管理事業

令和元年度から、維持管理事業を指定管理者に委託して実施している。

(1) 史跡管理

来園者が園内を安全に散策ができるように、景観保全にも留意しながら以下の業務を行った。

- ・史跡内巡視及び安全管理
- ・除草、樹木及び芝生管理
- ・復元建物の維持・安全管理(燻蒸作業・補修・消防訓練等)
- ・園路及び管理道等の維持・安全管理

【特記事項】(○: 指定管理者)

○除草、樹木及び芝生管理

除草作業、樹木の特性と景観に配慮した剪定、危険木の伐採を行った。また、芝生の地下茎を保護するための目砂を散布した。

○復元建物の維持・安全管理(燻蒸作業・補修・消防訓練等)

住居内の湿度管理、部材の腐朽防止を目的とした燻蒸作業、復元建物を長期的に維持していくための屋根修繕(経年劣化で傷んだ杉皮の取り換えや茅の葺きなおし等)を実施した。

※例年、燻蒸作業は毎年湿度の上がりをはじめ5月以降、消防訓練を実施した後に開始している。

○園路及び管理道等の維持・安全管理

劣化や破損した園路の手すりや柵等を修繕した。また、冬季には積雪でも見学できるように園路や駐車場の除雪を行った。

(2) 施設・設備管理

来園者が快適かつ安全に施設を利用できるよう、以下のように事務所等の施設の維持管理修繕を行った。

- ・事務所等の施設設備の維持・管理
- ・事務所等の施設設備の修繕、改修

【特記事項】（●：県、○：指定管理者）

●事務所等の施設設備の修繕、改修

調査研究等のホールを展示スペースとしても利用するため、ピクチャーレールを設置し、ライトを増設した。この他、監視カメラ設備等の点検及び修繕を行った。

○事務所等の施設設備の修繕、改修

雨漏りが発生したため、ガイダンス棟の屋根を修繕した。また、駐車場の区画線が消えかかっていたため、線を引きなおした。さらに経年劣化によって破損や退色した園内の看板（8箇所）について交換を行った。

○新型コロナウイルス対応

新型コロナウイルス感染防止対策として、建物内の換気・定期消毒を行った。来園者へは手指消毒及び体温測定、連絡先等の記入、フィジカルディスタンスを確保するよう協力いただいた。

3 活用事業

（1）史跡PR

ア 教育旅行誘致（中止）

例年、教育旅行の積極的な誘致を図るため、鳥取県教育旅行誘致促進協議会主催の「教育旅行情報説明会・商談会」に参加してきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大によって中止となった。

新型コロナウイルス感染症の拡大により県内の小中学校による修学旅行等の需要が増大したため、県内学校関係者の史跡に対する認知度、理解を深めるために直接訪問による利用案内を行い、史跡をPRした。

イ 観光情報説明会（中止）

例年、観光旅行の積極的な誘致を図るため、公益社団法人鳥取県観光連盟主催の「観光情報説明会・商談会」に参加してきたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大によって中止となった。

ウ 企画展・園外展示等

①夏季企画展「発掘調査研究成果展 むきばんだの土器から見えてきた新たな結びつき～中国山地を通じた交流～」

会 場 調査研究棟 企画展示室

期 間 令和2年5月30日（土）～9月27日（日）

内 容

令和元年度に刊行した発掘調査報告書に掲載した最新調査研究成果を踏まえ、「地域間の交流を示す外来系土器」をテーマとした企画展を実施した。

展示パネルにより「外来系土器」について解説を行ったほか、妻木晩田遺跡や県中・西部の遺跡で出土した実物の外来系土器を展示

した。また、外来系土器を分析したことによって、弥生時代後期から終末期にかけて吉備地域と強い繋がりがあったことが明らかになったことを解説した。

会期中は夏休みを含むため、子ども目線の位置に小学生向けの解説パネルを設置し、対象年齢を幅広くする工夫も行った。さらに、展示内容をわかりやすくまとめた展示解説シートを配架した。

②園外展示「むきばんだ史跡公園巡回展」

会 場 イオンモール日吉津（日吉津村）
倉吉未来中心（倉吉市）

期 間 令和2年10月17日（土）～10月18日（日）（イオンモール日吉津）
令和3年3月20日（土）～3月25日（木）（倉吉未来中心）

内 容

県西部の大型ショッピングモール、県中部の多目的ホールなど、地域の中核となる施設で遺跡や施設の紹介を行うパネル展示やドローンで撮影した動画の市長コーナーを設けた。イオンモール日吉津巡回の際は、同時に県内博物館等の展示も行われた。新型コロナウイルス感染症対策をとりながら安心して訪問で



むきばんだ史跡公園巡回展（イオンモール日吉津）

きる施設としてPRを行った。

エ パンフレット等

①パンフレット

学校をはじめとした団体利用のためのパンフレットを作成した。施設の利用案内のほか、県内外の近隣観光施設を配置した地図も掲載し、旅程を組む際に参考となるよう配慮した。

②ポスター

平成28年度以来更新がなかったポスターを新規に作成した。メインに使用する写真はドローンによる空中撮影を行い、むきばんだ史跡公園の魅力が伝わるよう工夫した。

オ 公式動画サイト（YouTube チャンネル）の開設

新型コロナウイルス感染症の拡大によりイベント、体験等の開催が困難になるなか、家庭でも楽しめる史跡公園のコンテンツとしてYouTube チャンネルを令和2年5月12日に開設した。

当サイトでは勾玉や組紐づくりなどの体験や、ものづくり講座などの解説動画、史跡公園を上空からドローン撮影した動画などを公開している。

（URL：<https://www.youtube.com/c/mukibanda-shiseki>）



（2）講座・イベント・弥生体験

当年度はイベント開催において新型コロナウイルス感染症による影響を大きく受けた1年となった。イベント・講座の計画に際しては鳥取県生活環境部くらしの安心推進課との協議を行い、適切な感染症対策を行った上で実施した。

ア 弥生のものづくり講座～プロフェッショナル編～

①高坏づくり

開催日 令和2年7月4日(土)～5日(日)

講師 むきばんだ土器づくりの会

参加者 8名

内容

妻木新山地区第30号竪穴住居跡出土の高坏(2世紀中頃)をモデルにした土器復元製作体験を通して、弥生時代の暮らしや技術を知る体験学習講座として実施した。

はじめにモデルとした高坏の基本的なデータや出土した住居について解説し、作業は粘土練りからはじめた。1日目で脚部と坏部の作成を行い、2日目で接合、全体の形状の調節を行った。講師の支援のもと、参加者全員が2日間で土器を完成させることができた。

②野焼き

開催日 令和2年10月3日(土)～4日(日)

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により当初の予定(令和2年9月5日(土)～6日(日))を変更して実施。

講師 むきばんだ土器づくりの会

参加者 8名

内容

覆い型の窯を築く「雲南式」の野焼きによる土器焼成の体験学習で、7月に行った高坏づくり講座とセットで2日間にわたって開催した。1日目は薪、土器を泥土で多い窯を構築して点火、焼成を開始した。随時空気の流入を調整し、温度の管理に努めた。夜には職員が宿直し、安全管理に努めるとともに焼成中の窯の温度変化を記録した。2日目は窯の壁を壊し、土器を取り出した。10個の土器中、破損のなかったものは4個にとどまり、成功率は低かった。坏部と脚部が外れてしまうものが多く、昨年の壺づくりに続き、器種特有の難しさがあることを知った講座となった。

イ 弥生のものづくり講座～入門編～

①弥生の機織り(動画公開)

(<https://www.youtube.com/watch?v=E42ASbnQhkM>)



公開日 令和3年3月20日(土)

監修 東村 純子(福井大学国際地域学部准教授)

内容

計画当初は参加者を募り体験講座を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症



弥生のものづくり講座～プロフェッショナル編～(左:高坏づくり、右:野焼き)

拡大により、動画を撮影し史跡公園のYouTubeチャンネルに公開することで代替とした。

今回は「輪状機」を使用し、草木染めをした3色の絹糸で腰帯を作成した。機織りについての基本的な事柄、使用する道具、手順などを説明の後、機織り作業の様子、完成状況を12分程度の動画にまとめて公開した。

②銅鍬づくり（動画公開）

(<https://www.youtube.com/watch?v=9kqTFsIQEUI>)



(<https://www.youtube.com/watch?v=1rU9iNj8CoU>)



(<https://www.youtube.com/watch?v=jKVNmuYQbkk>)



公開日 令和3年3月20日（土）

監修 吉田 広（愛媛大学ミュージアム准教授）

内容

本講座も計画当初は参加者を募り体験講座を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、動画を撮影し史跡公園のYouTubeチャンネルに公開することで代替とした。

動画は3編作成し、うち2編は監修者による弥生時代の銅鍬、青銅器の解説動画。残り1編は、史跡公園職員による鑄造の実演動画を作成しそれぞれ公開した。

ウ 弥生の森講座

①春の自然と弥生のくらし学習会（中止）

開催予定日 令和2年4月26日（日）

講師 鷲見 寛幸（鳥取県自然観察会指導員）

定員 30名

内容

新型コロナウイルス感染症対策のため、例年実施していた野草天ぷら等の試食を取りや

めて、弥生人の植物利用と公園内の春の野草観察に特化した内容として計画したが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、中止した。

②夏の自然と弥生のくらし学習動画配信「虫をさがして、いざ！弥生の森へ！！」

公開日 令和2年7月27日（月）

講師 桐原 佳介（米子水鳥公園主任指導員）

内容

公園内に棲息する昆虫の特徴を知り、その昆虫を育む「むきばんだの森」について理解を深めることを目的として企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、動画配信型式で実施した。

#1 虫の森ノムラホイホイ編

(<https://youtu.be/CBggAxmgQ6I>)



国立科学博物館の野村周平氏が開発した昆虫採集用の餌トラップ「ノムラホイホイ」を「虫の森」に仕掛け、採取できた虫を紹介した。

#2 ライトトラップ編

(<https://youtu.be/QNFQxLj4vMw>)



妻木新山地区の「弥生の森休憩舎」前にライトトラップを仕掛け、トラップに集まった虫を紹介した。

③びっ栗！秋の実りとむきばんだ遺跡

開催日 令和2年10月18日（日）

講師 川口 英之（島根大学准教授）

参加者 19名

内容

妻木晩田遺跡の発掘調査成果等から明らかになってきた弥生時代の植物利用について解説するとともに、公園内に整備したテーマ林「道具の森」と「木の実の森」で植生観察を行った。その後、公園内で採集したクリの実を



土曜講座（第3回「むきばんだの頃の朝鮮半島～行き交った人とモノ～」）

入れて土器炊飯を行い、土器でも御飯が炊けることを体験してもらった。

エ むきばんだ遺跡土曜講座

令和2年度の土曜講座は、年間テーマを『行き交う弥生人』として、弥生人たちの移動、交流に焦点を当てた講座を目指し、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった4月と6月を除く偶数月の全4回の実施を計画した。しかし、8月や令和3年2月に予定した講座は、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となり、8月に予定した講座は令和3年3月にオンラインで実施するなど、大幅な計画変更を迫られた。

第1回「弥生の宝石がもたらしたもの～玉と石器からみた弥生時代の交流～」

開催予定日 令和2年8月29日（土）

※令和3年3月20日（土）に延期して
オンライン配信で実施

講師 河合 章行（鳥取県立むきばんだ史跡公園 係長）

参加者 17名

第2回「出航！弥生の船」

開催日 令和2年10月10日（土）

講師 君嶋 俊行（公益財団法人鳥取県教

育文化財団調査室 室長）

参加者 22名

第3回「むきばんだの頃の朝鮮半島～行き交った人とモノ～」

開催日 令和2年12月12日（土）

講師 平郡 達哉（島根大学 准教授）

参加者 17名

第4回「土器から読み解く人の動き」（中止）

開催予定日 令和3年2月13日（土）

講師 梅村 大輔（鳥取県立むきばんだ史跡公園 文化財主事）

オ むきばんだジュニアファンクラブ

開催日 7月から1月まで毎月1回（全8回）

対象 小学3年生から6年生

参加者 10名

内容

むきばんだ史跡公園での月1回の体験を通じて弥生時代をより深く感じ取ることができる連続講座。今年は土器、石器、金属器、木製品など当時の人々が使った様々な道具を自分で作ることを通して弥生時代の生活や技術について学んだ。

第1回 令和2年7月18日（土）

結団式・遺跡案内

第2回 （新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）

第3回 令和2年9月12日（土）

弥生土器づくり

第4回 令和2年10月17日（土）

石包丁づくり、収穫、金属のやじりづくり

第5回 令和2年11月14日（土）

青谷上寺地遺跡見学

第6回 令和2年12月5日（土）

木さじづくり、脱穀



第1回 結団式・遺跡案内



第6回 木さじづくり・脱穀



第4回 石包丁づくり、収穫、金属のやじりづくり



第8回 ガラス勾玉づくり、鉄器づくり、修了式

第7回 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

第8回 令和3年3月6日(土)
ガラス勾玉づくり、鉄器づくり、修了式

カ むきばんだ女子考古部

対象 考古学に興味のある女性

参加者 15名

内容

考古学に興味があり、活動の様子をブログやSNS等で発信してくださる女性をターゲットにした「考古学の部活動」で、4期目の活動となる。活動期間は7月から翌年3月まで毎

月1回ずつ計9回の活動を予定したが、新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止や日程変更など大幅な計画変更を余儀なくされた。

第1回 令和2年7月12日(日)
オリエンテーション、考古学入門

第2回 令和2年10月25日(日)
フィールドワーク(妻木晩田遺跡を歩く)

第3回 令和2年11月29日(日)
遺跡見学ツアーin鳥取県中部

第4回 令和2年12月20日(日)
木製匙づくり



むきばんだ女子考古部

キ GWIは、むきばんだ日和（中止）

開催予定日 令和2年5月3日（日）～6日（水）

共催 妻木晩田遺跡活用実行委員会

内容

大型連休期間中に日替わりで様々な弥生体験を楽しんでもらうイベントとして、多目的広場と「弥生の館むきばんだ」を主会場に、火おこし体験、勾玉づくり、狩猟体験などの体験のほか、ボランティアガイドによる遺跡案内や弥生バザールを計画した。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。

（以下、予定した内容）

○5月3日（日）

- ・弥生土器クッキーづくり（協力：米子南高校調理部）
- ・金属やじりづくり

○5月4日（月）

- ・花カルタで植物はかせになろう！（協力：むきばんだを歩く会）



むきばんだ秋の満喫ウィーク

- ・組みひもづくり

○5月5日（火）

- ・はにわづくり（協力：むきばんだ土器作りの会）
- ・鹿角アクセサリーづくり
- ・Pepper による「弥生の館」の展示説明と『遠隔 VR 見学システム』のデモ（協力：米子工業高等専門学校）

○5月6日（水）

- ・弥生の森の木の実工作（協力：大山青年の家）
- ・本格石包丁づくり

○全日程共通

- ・勾玉づくり
- ・はくつつ体験
- ・狩猟体験
- ・魚つり遊び
- ・火おこし
- ・むきばんだを探せ
- ・スタンプラリー
- ・ボランティアガイドによる遺跡案内
- ・弥生バザール（飲食販売）

ク むきばんだ秋の満喫ウィーク～空んぼむきばんだ～

開催日 令和2年10月31日（土）、11月1日（日）、3日（火・祝）、7日（土）、



8日（日）

共催 妻木晩田遺跡活用実行委員会

参加者 1,146名

内容

例年、9月下旬に「むきばんだまつり」を開催してきたが、新型コロナウイルス感染症対策のため大規模集客イベントの開催が困難となった。そこで令和2年10月31日から11月8日の土・日・祝日の5日間に日程を分散して来園者の集中を防ぐとともに、体験ブースの多くを事前申込制とした。

期間中の10月31日、11月1日には、洞ノ原地区東側丘陵と「弥生の館むきばんだ」を会場に「ライトアップむきばんだ」を開催したほか、11月7日には「星取むきばんだDAY」として夜間開館延長を行った（曇天のため「遺跡で惑星を見る会」は中止）。

【実施内容】

○10月31日

- ・映える！写真スポット巡り
- ・銅鑄造
- ・弥生の琴づくり（青谷上寺地遺跡整備室）
- ・ライトアップむきばんだ

○11月1日

- ・弥生のかんざしづくり
- ・貝の腕輪を作ろう！（鳥取県埋蔵文化財センター）

- ・ライトアップむきばんだ

○11月3日

- ・自分だけの弥生柄エコバッグ
- ・大地のクレヨン
- ・発掘体験スペシャル

○11月7日

- ・秋の星座と三大惑星を見よう
- ・初めてのドローンチャレンジ
- ・銅鑄造
- ・弥生の森でウッドクラフト (大山青年の家)

○11月8日

- ・弥生のかんざしづくり
- ・弥生の森でウッドクラフト (大山青年の家)

○全日程共通

- ・勾玉づくり
- ・火おこし体験
- ・狩猟体験 (随時当日受付)
- ・鹿角釣針で魚釣り (随時当日受付)
- ・むきばんだ BINGO (随時当日受付)

ケ 空んぼむきばんだ～空から史跡を見てみると～

開催日 令和2年10月24日 (土)

参加者 21名

内容

普段は見えない高さや位置から撮影したドローン映像を、ヘッドマウントディスプレイを装着して視聴することによって、むきばんだ史跡公園の新たな魅力を知ってもらうため実施した。

当日は、十分な新型コロナウイルス感染症対策を講じた上でグループ単位での体験とし、洞ノ原地区東側丘陵又は妻木山地区でリアルタイムの映像を体感した後、体験学習室で事前に撮影したVR動画を鑑賞した。参加者からは、普段見られない光景を見られて良かった



空んぼむきばんだ～空から史跡を見てみると～

という声が寄せられた。

コ シンポジウム

鳥取県では、弥生時代を代表する2つの国史跡、妻木晩田遺跡と青谷上寺地遺跡(鳥取市)を貴重な歴史文化遺産として活用し、「とっとり弥生の王国」として新たな価値を創造するとともに、その情報を発信していくよう取り組んでいる。

その一環として、両遺跡の調査研究を通じて弥生時代の歴史や文化を学び、史跡の楽しみ方を追求する「とっとり弥生の王国シンポジウム」を平成28年度から企画し、当公園と鳥取県とっとり弥生の王国推進課青谷上寺地遺跡整備室が隔年交代で開催している。

令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した「倭人のつながり」を延期実施するために調整したが、年明けから新型コロナウイルス感染症が再拡大したため、開催を中止した。

(以下、予定した内容)

日時 令和3年2月20日(土) 午後0時50分～午後4時

会場 米子コンベンションセンター小ホール

内 容

記念講演 山田 康弘（東京都立大学教授）

基調報告 梅村 大輔（むきばんだ史跡公園文化財主事）

パネルディスカッション

パネリスト 山田 康弘

高田 健一（鳥取大学地域学部教授）

梅村 大輔

進 行 河合 章行（むきばんだ史跡公園係長）

サ スペシャルイベント

①古代と自然探検ラリー

主 催 妻木晩田遺跡活用実行委員会

開催期間 令和2年7月30日（木）～11月30日（月）

参加者 183名

協力施設 伯耆古代の丘公園
米子市児童文化センター
米子市福市考古資料館
県立大山自然歴史館

内 容

むきばんだ史跡公園をはじめ、大山、米子地域の歴史や自然にふれる子ども向けのイベント「古代と自然探検隊」を例年実施してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、代替として参加者各自が期間中にチェックポイントを巡ってミッションをクリアするラリー形式のイベント「古代と自然探検ラリー」を実施した。チェックポイントとして伯耆古代の丘公園、米子市児童文化センター、米子市福市考古資料館、鳥取県立大山自然歴史館の協力を得て3カ月間にわたって開催した。参加者のうち31名はすべての施設を周遊、また4施設以上を周遊して応募券を得られる

プレゼント企画には44名の応募があり、当選者には地域の特産品や周辺観光施設の入場券の詰合せが贈られた。

②なりきり弥生人生活（中止）

主 催 妻木晩田遺跡活用実行委員会

開催予定日

第1パーティ

令和2年8月21日（金）～8月22日（土）

第2パーティ

令和2年8月22日（土）～8月23日（日）

定 員 6家族

内 容

むきばんだ史跡公園の「弥生のムラ」で堅穴住居での宿泊をはじめとした弥生時代の衣・食・住の追体験を行う1泊2日のイベントで、竹や木による食器の製作や土器炊飯、ナイトハイクなどを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した。

シ 弥生体験

①はっくつ体験（中止）

内 容

例年、5～11月の日曜日及び祝日に妻木山地区の発掘体感ひろばで行っているはっくつ体験は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためイベント時を除き中止した。

②お気楽♪弥生気分！

開催日 令和3年3月21日（日）、27日（土）、28日（日）

参加者 14名

内 容

例年、土、日曜日及び祝日に様々な弥生体験を予約不要で提供していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため相当期間が中止となり、3月の3日間のみ、「勾玉づくり」

を開催した。

ス その他

①むきばんだを探せ！

開催日 令和2年12月3日～令和3年3月31日

場 所 弥生の館むきばんだ

参加者 115名

内 容

「弥生の館 むきばんだ」内に貼られた『むきばんだ』（当公園の名誉ムラ人）のイラストをすべて探し出した参加者に記念シールをプレゼントする自由参加型のミニゲームを例年開園日は毎日実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月～11月は実施を控えた。

②らくらくサイクリング事業

広い史跡公園内を楽に散策することができるよう、6台の電動アシスト自転車の無料貸し出し及び個人の持ち込み自転車の受け入れを行っている。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月、5月、9月～1月、3月の間貸し出しを停止しており、貸出期間中に計28名の貸し出しがあった。

【園内走行のルールについて】

- ・園内を走行できるのは、受付で発行する許可証を持った史跡公園レンタル自転車、白鳳の里レンタル自転車を利用している来場者、及び個人の持込自転車での利用者とする。
- ・史跡公園レンタル自転車の利用者には保険が適用される。個人持込自転車については、保険の適用外なので自己責任であることの同意を得た上で入場を許可する。
- ・必ずヘルメットを着用する。
- ・歩行者や他の自転車に十分注意する。

- ・自転車は指定された管理道のみ走行する。
- ・急な坂道では、下りは降車して歩く。

【電動アシスト自転車の貸し出し】

運用期間 通年

※雨天時や路面が濡れているときは中止

貸出台数 26インチ電動アシスト自転車7台

貸出制限 身長142cm以上

受付方法 当日受付・事前予約可

II 連携・協力

1 妻木晩田遺跡ボランティアガイドの会

妻木晩田遺跡を訪れた来園者に対して遺跡を案内し、その魅力を伝えて楽しんでもらうために、平成13年に「妻木晩田遺跡ボランティアガイドの会」が設立された。同会は、定時・予約ガイドの手配、資質向上を目的とした積極的な講座等の受講及び自主研修等を行っている。

通常の遺跡案内のほか、当公園が主催するイベントでも遺跡ガイド等で協力いただいている。

当公園では、スキルアップ研修の開講、遺跡案内に有用な推薦講座の紹介、県外関連施設への研修といった会員の資質向上に係る支援、そして新規ボランティアガイドの募集及び養成の協力を行っている。

(1) 概要

設立 平成13年2月10日

会長 勝部 将之（～令和3年2月27日）
国谷 光彦（令和3年2月27日～）

会員数 40名（令和3年3月末現在）

(2) 活動内容

例年、妻木晩田遺跡の案内やむきばんだ史跡公園主催イベントの支援を行っているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動を休止した。

(3) 史跡公園主催の研修、講座

例年、接遇研修や県外研修をはじめとするガイド研修や新規ガイド養成講座を行っているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

2 弥生体験ボランティア

史跡公園で実施している弥生体験やイベント時の体験を、一般の弥生体験ボランティア及び島根大学教育学部の学生ボランティアに支援していただいているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント時、通常時ともに体験ボランティアは活動を休止した。

3 妻木晩田遺跡活用実行委員会

妻木晩田遺跡活用実行委員会は、米子市及び大山町に所在する「国史跡妻木晩田遺跡」の活用を行い、両市町民の文化財に対する意識の向上と活性化を図るため、平成17年に設置された。事務局を当公園内に置き、経費は鳥取県・米子市・大山町が負担している。

今年度は委員会を1回開催し、主催事業として「古代と自然探検ラリー」を開催。また共催事業として「むきばんだ秋の満喫ウィーク～空んぼむきばんだ～」を開催した。

活用実行委員会委員及び幹事

会長

竹内 友徳（むきばんだ史跡公園所長）

副会長

前田 昇（むきばんだ応援団事務局長）

委員

横川 佐津子（ふれあい茶論弥生の風代表）

勝部 将之（妻木晩田遺跡ボランティアガイドの会会長）

錦織 宏明（株式会社白鳳 淀江ゆめ温泉執行役員総支配人）

山浦 敦史（米子市淀江振興本部淀江振興課長）

鶴籠 博紀（米子市経済部文化観光局観光課長）

高見 光典 (鳥取県西部総合事務所地域振興局西部観光商工課長)

戸井 歩 (鳥取県地域づくり推進部とっとり弥生の王国推進課長)

幹事

平山 晃基 (米子市経済部文化観光局文化振興課主事)

若山 俊介 (大山町観光課文化財室主事)

石原 恵一 (西部総合事務所地域振興局西部観光商工課観光担当課長補佐)

田中 澄子 (妻木晩田遺跡ボランティアガイドの会事務局)

米原 大造 (妻木晩田遺跡ボランティアガイドの会事務局)

岡田 信行 (妻木晩田遺跡ボランティアガイドの会事務局)

井上 玲美 (上淀白鳳の丘展示館学芸員)

濱本 利幸 (鳥取県立むきばんだ史跡公園係長)

河合 章行 (鳥取県立むきばんだ史跡公園係長)

本池 優子 (鳥取県立むきばんだ史跡公園係長)

枡家 豊 (鳥取県立むきばんだ史跡公園文化財主事)

【委員会】

開催日時 令和2年6月11日(木)午前10時
～11時30分

参加者数 12名

内容

- ・令和2年度副会長、監事の選任について
- ・令和元年度事業報告、収支決算報告について
- ・令和2年度事業計画(案)、収支予算(案)について

4 サークル活動

(1) 土器づくりの会

弥生講座の参加者により組織されたサークル(平成16年発足)である。弥生土器の復元研究を行う一方、復元した竪穴住居内に置く展示用の土器や、宿泊体験に使用する炊飯用の土器などの製作に協力いただいている。また、土器づくり講座や土器復元講座、イベントの土器・はにわづくり体験等で講師として指導いただいている。

(2) むきばんだを歩く会

妻木晩田遺跡を取り巻く自然環境を学び、その観察成果を情報発信に活用することを目的に平成17年4月に発足した。

月1回定例会を開き、植物観察や写真撮影を行い、毎月の観察結果を「花だより」として刊行している。これまでに観察した植物は250種類にも及ぶ。また、樹木解説板を園路周辺の樹木、約100本に取り付けるなどの活動を積極的に行っている。

妻木晩田遺跡で見ることのできる樹木や草花を写真で紹介し、名前の由来や暮らしとの関係を記載した植物マップの発行などを行っている。

Ⅲ その他の事業

1 とっどりの文化遺産魅力発掘プロジェクト

(1) プロジェクトの概要

鳥取県内の優れた文化財の地域資源としての魅力を発掘し、地域活性化の資源として活用するため、現在は文化財としてあまり認識されておらず地域に埋もれている文化遺産を掘り起こして光を当て、その魅力を地域活性化の資源として活用するために事業を実施した。

【実施主体】

とっどりの文化遺産魅力発掘プロジェクト
実行委員会（委員長：田中秀明）

事務局：むきばんだ史跡公園

【事業】

とっどりの文化遺産の魅力を発掘し、地域にとって貴重な資源であることを学んでもらうために米子市淀江町を中心とした地域の文化遺産めぐり、文化遺産トークプレイスのほか、因幡地方（鳥取県東部）で継承されている因幡麒麟獅子舞の史跡での上演を行った。

【事業財源】

文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）、鳥取県、米子市、(株)白鳳（上淀白鳳の丘展示館）、(公財)米子市文化財団（米子市立山陰歴史館）負担金

(2) 個別の事業概要

ア よどえまるごと道草日和 2020

【事業費】 30千円

【事業概要】

平成25年度から実施している「よどえまるごと道草日和」は、地域住民が主体となり地域の文化や魅力を掘りおこし、イベントとして企画することで地域内外へ広く発信するこ

とに成功している。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、文化遺産を活かしたまちあるき体験プログラム事業等は実施せず、ホームページに過去の実施状況を掲載した。

イ 学ぶ・楽しむ淀江・大山の歴史遺産講座

【事業費】 171千円

【事業概要】

午前中に国指定重要文化財である石馬や国史跡向山古墳群をはじめとした周辺の古墳を専門職員の解説のもとに歩く「古墳めぐり」を実施し、午後から「古墳時代の淀江ー古墳と石馬から考えるー」と題し淀江の古墳時代の遺跡等の評価について、講演会、トークセッションを行った。

【実施状況】

①古墳めぐり

日時：令和3年2月27日（土）

午前10時～午前11時30分

案内人：中原 斉（米子市文化振興専門官・鳥取県ヘリテージマネージャー）
長谷川 晋也（鳥取県文化財保護指導委員）

会場：晩田山1・2号墳、向山古墳群ほか

参加者：39名

②講演会・トークセッション

日時：令和3年2月27日（土）

午後1時30分～午後4時10分

講師：

【講演会】角田 徳幸

【トークセッション】角田 徳幸

君嶋 俊行（公益財団法人鳥取県教育文化財団調査室長）

会場：むきばんだ史跡公園 体験学習室

参加者：40名

午前中に史跡を利用した体験事業「古墳めぐり」を行い、地域の文化遺産に直接触れる機会を提供し、午後から講演とトークセッションを行うことで歴史的意義や貴重さをより実感していただく機会を提供できた。

【事業成果】

古墳めぐりをした後に講演・トークセッションを実施したことにより、理解を深めることができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から規模を縮小し、感染防止対策をとって実施した。アンケート結果からは、「淀江古墳群のすばらしさを改めて知り、この貴重な遺産をしっかりと受け継ぐ大切さを伝えていきたい」等の前向きな御意見を多くいただき、地域にある文化遺産の歴史的意義や魅力を感じていただく良い機会となった。

ウ 米子歴史絵巻

【事業費】 435千円

【事業概要】

「米子歴史絵巻」は、平成24年度から米子市の史跡等に親んでもらうためにイベントを実施している。

令和2年度は鳥取県東部（因幡地域）を中心に東は兵庫県北部、西は湯梨浜町にかけて継承されており、国指定無形民俗文化財となっている「因幡・但馬の麒麟獅子舞」と鳥取県無形民俗文化財「因幡の傘踊」の公演を行った。

【実施状況】

日時：令和2年9月20日（日）

午後2時～午後3時

出演：因幡麒麟獅子舞の会

国府町因幡の傘踊り保存会麻生支部

場所：米子市淀江文化センター

参加者：176名

「因幡の麒麟獅子舞」は太鼓囃子にあわせて、4～6kgもある獅子頭をゆったりした動作で低く回したり伸び上がったり、鉦かねの音でしょうじょう猩々がゆったりと舞い、「因幡の傘踊」は囃子にあわせて力強く傘を大きく回し、見応えのある舞いを披露した。参加者に地域の伝統芸能や芸能の担い手の活躍などを広く知っていただく機会となった。

【事業成果】

アンケート結果からは、「優雅さと力強さの競演は素晴らしかった。郷土の誇りである伝統芸能は今後も保存、伝承を願う」等のご意見を多くいただき、継続して地域の史跡活用、伝統芸能の公演を行ってきたことが、文化遺産の普及啓発に一定の成果をあげており、文化遺産に関心を持つ人への獲得につながった。



学ぶ・楽しむ淀江・大山の歴史遺産講座

IV 利用状況

1 入場者数

令和2年度入場者数 19,913人
(前年度比 67.4%)

2 施設の利用状況と今後の対策

令和2年度の年間入場者数は19,913名(前年度比67.4%、9,612名減)で、予約利用3,431名(同58.9%、2,393名減)、個人利用等16,482名(同69.5%、7,219名減)とも、新型コロナウイルス感染症の影響によって大幅に減少した。特に、4月から5月にかけて、新型コロナウイルス感染症の第一波の影響を受け、4月13日から5月6日まで閉館を余儀なくさ

れ、この2ヶ月だけで前年度比7,080名減となっている。

予約利用では、一般予約が大きく落ち込んだ一方で、旅行会社関係と教育関係(学校)は増加した。旅行会社関係では、11月から12月にかけて、大阪や広島からのツアーに組み込まれ、前年度比77.8%増となった。教育関係(学校)では、鳥取県東・中部からの修学旅行での利用が顕著で前年度から微増している。

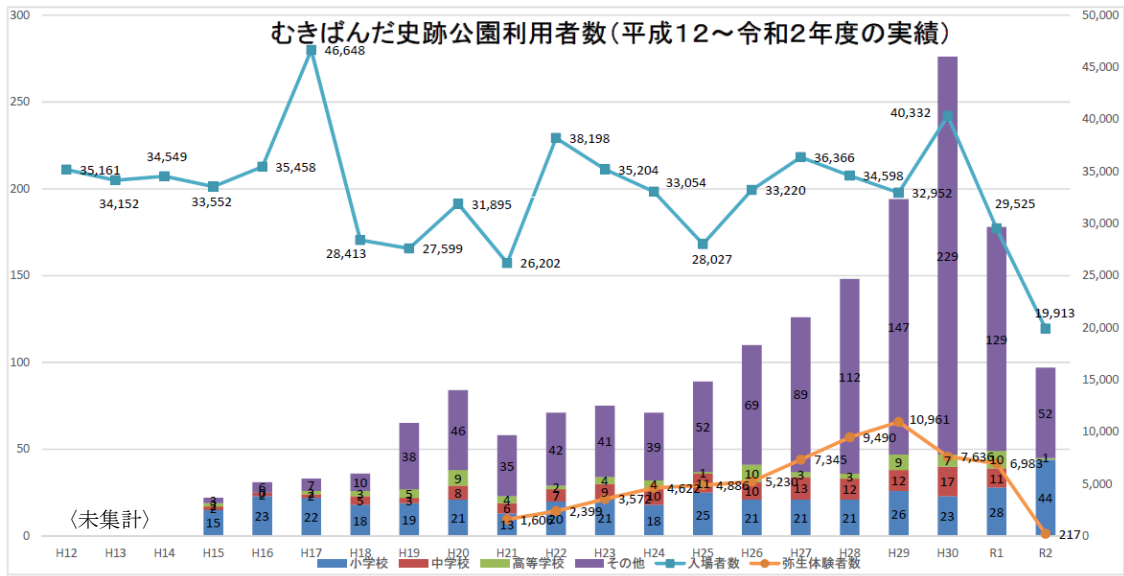
個人利用等についても減少しているが、年度後半からは回復傾向が続いており、新型コロナウイルス感染症の第三波があった1月を除いて、前年度と同等以上の入場者があった。

入場者数内訳

区分	予約利用					その他 (個人等)	合計
	一般予約	旅行会社 関係	教育関係 (学校)	教育関係 (学校以外)			
R2	3,431	590	841	1,952	48	16,482	19,913
R1	5,824	2,307	473	1,840	1,204	23,701	29,525
増減	△2,393	△1,717	368	112	△1,156	△7,219	△9,612

月別入場者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予約利用	75	32	123	57	56	354	904	1,148	629	13	40	0	3,431
その他	1,140	1,183	1,001	1,405	1,364	2,142	2,666	1,877	708	436	1,141	1,419	16,482
合計	1,215	1,215	1,124	1,462	1,420	2,496	3,570	3,025	1,337	449	1,181	1,419	19,913
前年度	2,990	6,520	1,818	2,385	2,588	2,807	2,913	2,567	1,313	1,267	932	1,425	29,525
増減	△1,775	△5,305	△694	△923	△1,168	△311	657	458	24	△818	249	△6	△9,612



V 公園運営（令和2年度）

1 組織

鳥 取 県		指 定 管 理 者	
所長（1）			
		次長（1）	
調査活用担当（10）		事務職員等（5）	
係長	3	事務職員（非常勤職員）	1
文化財主事	4	史跡管理員（非常勤職員）	2
活用補助員（会計年度任用職員）	2	受付員（非常勤職員）	2
史跡管理補助員（会計年度任用職員）	1		

2 職員

鳥 取 県		指 定 管 理 者	
職名	氏名	職名	氏名
所長	竹内 友徳	次長	松本 薫
調査活用担当		事務職員等	
係長	濱本 利幸	事務職員	米田 志保
係長	本池 優子	史跡管理員	岡本 敏男
係長	河合 章行	史跡管理員	島田 良典
文化財主事	長尾かおり	受付員	堀江 実
文化財主事	梅村 大輔	受付員	森田 ゆみ
文化財主事	枅家 豊		
文化財主事	森藤 徳子		
会計年度任用職員（活用補助員）	渡辺和香子		
会計年度任用職員（活用補助員）	松岡 藍		
会計年度任用職員（史跡管理補助員）	池口 道生		

3 事業費

事 業 名	事業費（千円）
「とっとり弥生の王国」知・楽・学事業	8,844
妻木晩田遺跡調査整備事業（発掘調査）	17,860
妻木晩田遺跡調査整備事業（保存整備）	12,292
むきばんだ史跡公園運営費	54,671
合計	93,667

4 施設の概要（令和3年3月時点）

土地 1,491,657 m²

建物 2028.14 m²

名 称	年 度	面 積 (m ²)
妻木晩田遺跡事務所（調査研究棟）	H11	493.42
弥生の館 むきばんだ	H21	837.52
遺構展示館	H22	268.56
弥生の森休憩舎	H22	71.73
ボランティア休憩所	H13	213.04
東屋（3棟）	H12	58.08
危険物保管庫	H17	5.49
遺物収蔵庫	H25	50.78
自転車倉庫	H29	9.3
機械収納	H30	20.22
合計		2,028.14

鳥取県立むきばんだ史跡公園年報 2020

発行年月日 2022（令和4）年3月16日

編集・発行 鳥取県立むきばんだ史跡公園

〒689-3324

鳥取県西伯郡大山町妻木 1115-4

TEL 0859-37-4000

FAX 0859-37-4001

HomePage <https://www.pref.tottori.lg.jp/mukibanda/>

Facebook <https://www.facebook.com/Mukibanda>